資料2

人口・ゆたかさ両検討部会における意見等のまとめ

1．人口検討部会

視点・論点(案)	これまでの「人口」部会における主な委員の発言ポイント	議論の展開、提言の方向性など
①企業誘致に片寄らない地元企業の成長支援	5年10年と長期にわたって定着した企業を誘致企業と言うのか。地場産業として捉えていってもいいと思う。**地域の産業を伸ばし、その結果雇用が生まれ人口が増えていけば、ここで安心して暮らせる基盤ができて子供を産もうという気運も高まる。**	
	岩手が日本一子育てのしやすい県になればそこを選んで来る人もあるかもしれないし、そうなっていくことで若い人たちの雇用の面でも、そういう人たちの力を企業側が取り入れるだろうし、さらに企業としても伸びていくのではないかと思う。 **地元に根付き、今後もこの場所でやるという覚悟を決めている地元企業に対してもっとバックアップする。**そのような地元の民間企業に、これまで誘致企業に対してやってきたことの一部を注いでも良いのではないか。	
	今、非常に親が忙しいというのが現状である。行事があっても出てこられないし、働いていても正規雇用ではなくバイトだったりする。これは子育て全てに関わることで、**安定した正規雇用をより多く作っていかないと、定着していくのは難しいと思う。正規雇用をできるような安定した企業を誘致するなり、地元企業を活性化するなりということが大事と思う。**	
	企業を誘致してそこに恩恵をもたらし、地元の人たちの雇用をつくるというのも一つだが、人口を増やしていくということを考えると、やはり**外に行った人を中に入れるというのが必要**かと思う。県の予算ならば**地元企業にお金を落としながら、外から人を連れてくるという使い方をした方が、人口を増やしつつ雇用も生まれる。**	
	何とか新規高卒者を残していかないと、地域の活性化や発展にもつながらない。**増やすことよりもまず流出を防ぐことに力を注いでいかないといけない。新規高卒者が地元に残ることにより、人口の流出を防ぐだけではなく地域の活性化や経済効果もものすごく大きい。** **地元企業に力をつけてもらえば必然的に雇用が生まれる。**いつ来るかわからない企業誘致を推進するより、地元企業に頑張ってもらう方が効果的かつ現実的と思う。	

視点・論点(案)	これまでの「人口」部会における主な委員の発言ポイント	議論の展開、提言の方向性など
②子育て環境の向上	**子供を生み育てる社会の支援の仕組みづくり、そこに対するお金のかけ方、それも大きなポイントではないかと思う。** 岩手県は自然のゆたかさも含め、県民の人間性や考え方がとてもゆたかだと社会全体が意識できるような県づくりも必要だと思っている。 **保育園や幼稚園の料金の問題というのも若い子育てをする夫婦にはすごく負担**となっている。その辺のところを助けてあげなければ、子供を産み育てる環境は整っていかないと思う。特に学童ではない形の子育てのための地域での組織。世話も含めて社会全体が子供を育てていくために手伝っていく、よく言われるように、**子供が地域の宝という考え方が定着して実行に結びついていかなければならないと思う。**	
	今は女性も家計を支えているので、**女性が安心して子育てと仕事に励むことができる安定的就業環境を整備することが大事。**女性の立場になり、地域一丸となってどう取組むかだと思う。	
	子育ては楽しいということを我々親の立場からどんどん発信していかねばならないし、学校でやっていくのが務めかと思う。いずれ全て雇用や環境につながっていく。 あとは**地元に戻りたいと子供たちが思うよう、いかに我々で育んでいくかだと思う。**前回の話を聞くとたくさんの方が地元に帰りたい思いを抱いているとわかったので、そういった気持ちを子供たちが持てるように育てなければならないと思う。	
	現時点で子育てや保育が大変だと言っている人もいれば、将来的にもっとお金がかかることを不安に思う人もいる。**教育に対する経済的支援の充実を考えていけばもう少し安心して産めると思う。ちょっと先のことまで考えていかないと安心した子育てはできないのではと思う。**	
	雇用だけではなく、もう少しいろいろな見方をした方が良いと思う。**若い人は子育てができるかどうかよりも、子供を作って大丈夫かということに意識を持っている方が多い。**	
③起業支援	これまで技術系の仕事をしてきた人たちやクリエイターと呼ばれる人たちが、震災後地元に帰ってきて自分で商売をやっているという例が結構ある。向き不向きはあると思うが、**自分で何かを生み出そうという人たちに定着してもらうというのがひとつの方法としてあると思う。**そういう人たちが戻ってきて根付くというのは、今だからこそあることではないかと実感している。	
④過疎地域における福祉医療等の確保	女性の働き方の問題や65歳を過ぎても働かねばならない高齢者の問題、岩手県では特に過疎の問題。そういうところで**福祉や医療や介護を進めると、大きなロスや無駄が出てきたりする**ので、そこをどうするか。	

視点・論点(案)	これまでの「人口」部会における主な委員の発言ポイント	議論の展開、提言の方向性など
⑤若い人材の流出防止とUターン	私が新規高校卒就職希望者によく言うのは、「もらう金より、残る金」。一辺倒に給料面だけではく、地元は地元の良さがある。地元企業で働く良さは生涯にわたり家族が安心して働くことができること。都会に行きUターンして戻ってきて、また一から職を探すよりは最初から地元で働いた方が安心だということを生徒たちに教えている。**学校教育の中でも地元の良さを指導してもらいながら、それぞれの地域において産学官民が一体となって、地元の良さというものを訴えて流出を防ぐことが重要だと思う。**	
	地域格差も実際たくさんあるが、そんな中で地域の魅力というのもたくさんある。岩手県一律ではない難しさもある。 **県外の人たちは盛岡、岩手はすごくいい町、県だと言っている。ただこちらはそれに気がつかない。**そんなところにヒントがあるのかなと思う。	
	外に出ることにより逆に岩手が良く見えるということもあり、一概に外に出ることは駄目なことだけではない。視野が広がったり、ものの考え方が変わってくるとか、岩手や地元に対する郷土愛が生まれることもある。**流出は防ぎたいということがありつつも、出た人が戻ってこられる環境を整える**というのも一つかと思う。	
	せっかく岩手で大事に産み育ててきた子供たちが県外に就職を希望している。大切な人材がどんどん流出していく。これも岩手県にとっては大変な損害だと思うので、**岩手県の子供たちが岩手県で十分働いていけるような道を確立し、子供たちを育んでいくということがとても大きなことだと思う。**	
	出産年齢の女性の人口が減っていることが出生率を下げて、自然減につながっているのだが、その裏には生産人口の男性がいないこともつながっていると思う。出産年齢の女性ばかりいても相手がいなければいけないわけで、それで出生率も下がっているし、**結婚したいという女性の周りに男性がいないとやはり流出していく。**	
⑥交通網の整備促進	**県庁所在地である盛岡と1時間位で行き来できるようにしてもらいたい。**そうなれば、3次産業もできるかもしれないし、通勤圏内が広がり地元に残って盛岡まで通勤することも可能になるかもしれない。地域間格差是正において久慈地域と盛岡間の交通網の整備は早急に着手して頂きたい。	
	交通網の整備について非常に必要性を感じている。例えば盛岡と沿岸地域が1時間で結ばれれば、そこに病院がなくともすごく便利になるかもしれない。**盛岡までが通勤圏内になれば、地域の社会減にも歯止めがかかり、**商店街も元気になると思う。	
	田舎に行くほど格差が大きい。やはり交通網、道路をもう少し広げるとか整備する必要がある。盛岡や花巻にどこからでも通える交通網整備も必要だと思う。	

2. ゆたかさ検討部会

視点・論点(案)	これまでの「ゆたかさ」部会における主な委員の発言ポイント	議論の展開、提言の方向性など
①「多様性」「複数性」のあるコミュニティ社会	震災時に、選択と集中により無駄を一切省いた生産システムや流通システムの脆さを痛感した。似田貝先生がおっしゃったような**「複数性」、「代替性」といったこれまで無駄とされていたものが、実は、システムとして強さを持っていた**ということを改めて認識した。 **「多様性」、「複数性」から「他応性」につながっていけばよい**と思った。こうした「多様性」、「複数性」、「他応性」が社会のコミュニティの中に確立されていくと、**人間力に富んだ人たちが活躍するコミュニティ、地域におけるオーケストラのようなコミュニティ**が作られていくのではないかと思った。 出稼ぎに行くのも積極的に捉えれば、都会の知識や技術を持って帰るということ。**色々な人が色々なところから情報を持ち寄り、村を形成していく**ということが岩手県でも起これば、有意義なことと思う。	
②精神的な「ゆたかさ」の評価	所得額や報酬などの数字だけで評価すると、岩手県の中でも特に県北は貧しいということになってしまうが、**ブータンにおける幸福度のようなもので見れば、評価は変わってくる**のではないかと感じた。 岩手県には、**ホスピタリティ、自然が育ててきた食の体系**など豊かなものがたくさんあるし、この広い土地の中で、本当に多様性に富んだ所で、これを活かしていくことが可能であると思う。**芸能などを後世に伝えてきている文化の深さ**も、どこかに反映できないかと思う。 「人と人とのつながり」、「分かち合い」による**心のゆたかさについては、モラルで終わらせずにきちんと形にして教育の中でも活かせるようにしていくことが大切**であると思う。	
③複数の収入先の確保	これからの岩手県の豊かさを考えていくときに、大きな製造業を誘致するということは難しいので、家計が父親の収入のみに頼るという経済ではなくて、**父母どちらの収入も複数得られる経済**を岩手県は目指すべきではないかと思う。 北陸3県は、女性の就業率が高い。個人商店等の閉鎖によりシャッター通りが増えてきているが、次世代につないでいくことを考えると、**女性も参画できることが満足度につながる**と思う。	

視点・論点(案)	これまでの「ゆたかさ」部会における主な委員の発言ポイント	議論の展開、提言の方向性など
④お金に頼り切らない暮らし	自給自足ができる豊かな自然を有し、お金に頼らなくても生活していけることも岩手の豊かさの一部であると思う。 自給自足可能であることは岩手県の強みである。大学の授業で、自分が食べたものの出自についてアンケートを取ることがあるが、親や親戚、知り合いから野菜などを貰っている学生がよくいる。これは凄いことだと思う。	
⑤森林資源を活かす	山や海、川、森などが、お金にならないからと放置されているが、自然の循環から考えても放っておいてよいとは思えない。山をどうにか活用して雇用を生んだり、ＮＰＯの活動の場を作っていくなどの工夫が必要である。 国産木材は立ち行かない状況だが、林業は、地域を担うという点で考えれば、強みにもなると思う。	
⑥農業の可能性・6次産業化	農業の6次産業化という言葉が流行っているが、昔はどこの農家でも炭を焼いたり、紙をすいたり、草履を編むなどの6次産業をやっていた。 製造業の一人あたりの工業産出額は3000万円以上であるのに対し、農林水産業はせいぜい一人当たり300万円がいいところであるが、第一次産業は、加工して売ることでまた価値を生むことができる。 農業は、定年もなく、むしろ年齢が上の方が色々な技を持っており、それが強みになると思う。 昔は、東京に出てうまくいかなかったときに、故郷へ帰って農業をするといったような仕組みがあったが、今は、帰ることもできないという状況も生じてきている。地域の人間が頑張って、帰れる場所をもう一度作っていかなければならない。	
⑦長年培われた技術の尊重・継承	定年を迎えた日本の技術者たちが、海外で技術を教えている状況が生じている。報酬が高いこともその原因の一つであるが、一番の理由は、日本の高度成長を支えてきた技術者たちが、海外で非常に尊敬されるためである。長年培われてきた技術が海外に流出してしまうのは、非常に大きな損失であるので、技術者たちを国内・県内に留める施策が必要であると思う。 製造業は、グローバル化の中で海外展開している状況であるが、真似できないもの、キャッチアップされない良さを貫くことが必要であると思う。	
⑧公共サービス面でのミニマム保障	最低限の医療、福祉、教育がどこに居ても満たされることが必要。その点の満足度において、北陸3県と差があるような気がする。昭和40年代に、最低限のものを出すという「シビルミニマム」なる言葉があったが、「県民ミニマム」といった最低限保障されているという安心感が必要だと思う。	

視点・論点(案)